

ると約 10 メートルのロープが伸び、水難者を救助できるというものである。この人命救助に役立つアイデアが高く評価された。また、当時坂野中学校では生徒の創意工夫の力を養い、夏休みに科学作品展示会を開くなど理科教育に力を入れており、佐川君の恩賜記念賞に併せて坂野中学校が、この発明工夫展の学校賞として「豊田佐吉賞」を受賞した。

この年の 2 月 6 日に東京で行われた授賞式には、湯浅藤吉校長に学校賞、佐川君に恩賜記念賞が贈られ、この式典の最後に受賞者を代表して、佐川君が答辞を述べた。この受賞については、地元新聞はもちろん、全国紙にも大々的に報道され、本校の歩みの中で特筆すべき出来事である。

## (5) 文部省指定同和教育研究発表会

昭和 49 ～ 50 年度の 2 年間にわたり、文部省・徳島県教育委員会・小松島市教育委員会の指定を受け、同和教育の研究が本校で実施された。このときは「同和教育を教育活動全体を通じた人間尊重の教育とする」、「民主社会形成に積極的に貢献する人間の形成」を目標に掲げ、数々の研究が行われた。同和教育の意義・目的が十分社会に浸透していなかった当時のことを考えると、本校で行われたこの研究は、今日でも広く実践されている教育活動であり、同和問題解決に向けて本来あるべきこの教育の方向を示している。以下研究の内容を紹介する。

研究主題 「学力の向上と望ましい人間形成をめざす同和教育」

－差別に立ち向かう能力を培う核心的指導のあり方－

### ○同和教育の位置づけ

- (1) 民主教育の基底としての同和教育
- (2) 学校教育における指導の重点
  - ① 人格的ふれあいの場をつくる
  - ② 物事を科学的に認識する力を育成助長する

### ○研究実践内容

#### (1) 教科指導（授業研究会）

教師中心、画一的、一斉指導から主体的、発見的、集団思考的な授業へ

#### (2) 同和問題学習（授業研究会、授業参観と懇談会、学年・全体研究会）

教師自らが生徒と共に求めていく態度が生徒に共感を与え差別解消への意欲を定着させる。差別解消への知的理解から態度化へ。

#### (3) 学級づくり（学習・生活・進路指導を通しての仲間づくり）

#### (4) 地域別同和教育懇談会の実施

#### (5) 保護者同和問題意識調査と子供の見た保護者の同和問題観

#### (6) PTA 同和教育研修（授業参観懇談会、講演会、映画会）

#### (7) 学習会の充実

### ○文部省指定同和教育研究発表大会【昭和 50 年 11 月 7 日 於：坂野中学校】

授業説明・公開授業（2 時間）・実践報告が行われ、県下各地から教員・同和教育関係者が集い、盛大に開催された。

### ○研究同人（敬称略 役職名は当時のままです。）

（校長）住友 一美 （教頭）湯浅 肇、豊朝 忠芳

（教諭）宇尾ユキエ、三並 昭、水口 勝美、東 嘉一郎、森本 雅幸、宮岡 修一、中村 一義  
武田 廸、佐々木賢治、井内 光子、麻植 義憲、宮崎 清、西 良嗣、森 華子  
田原 啓子、米本 好孝、日下 旭、園田 寿、佐坂 民子

（助教諭）待田 陽子、川内 時男、木下 敬司 （養護教諭）杉田 操